



第 8 回アジア・スマートシティ会議 開催速報

「アジア・スマートシティ会議」(Asia Smart City Conference: 以下、「ASCC」という。)は、アジアを代表する都市のリーダー、国際機関、学術機関、民間企業の代表者らが一堂に会する国際会議であり、アジアにおけるスマートな都市開発に向けた情報のハブ構築を目指しています。ASCC では、各都市のリーダーから提示される都市課題や成長へのビジョン、企業や学術機関による革新的ソリューションの提案、公民連携を資金面で支援する国際機関の施策や、世界の様々なベストプラクティスが共有されてきました。

令和元年 10 月 8 日から 11 日にかけて、第 8 回 ASCC は、「マーケットプレイスを通じた新たなビジネス機会の創出に向けて～ビジネス・マッチングを促進するナレッジ・ハブの役割を考える～」をメインテーマに、具体的に展開しているスマートシティの動きを共有するとともに、キープレーヤーの出会いの場の提供を目的として開催しました。都市からの都市課題とその解決に向けた取組の状況や、日本企業等のソリューション情報などの発表、展示、都市と企業のコミュニケーションの場を提供する「ビジネス・マッチング・ステージ」、スマートな都市開発に関連するテーマの 6 つのセッション、海外からの参加者を対象とした視察をはじめ、多様なメニューを通して、参加者の相互理解とネットワーキングを促進しました。10 月 10 日のクロージングセッションでは、第 8 回 ASCC の成果として「横浜宣言」を発表しました。

また、今回の ASCC では、ASCC 開催週を、「アジア・スマートシティ・ウィーク」(以下、「ASCW」という。(10 月 8 日～11 日))と銘打ち、同期間に国土交通省が主催する「日 ASEAN スマートシティ・ネットワーク ハイレベル会合」(以下、「ASCN」という。)、つくば市で開催された G 20 貿易デジタル経済大臣会合の閣僚声明で採択された「グローバル・スマートシティ・アライアンス設立会合」(以下、「GSCA」という。)と連携開催することにより、国内外に効果的かつ力強く情報発信しました。

ASCW 期間中には、3 つの会議 (ASCC、ASCN、GSCA) に合計約 850 人の参加がありました。



第 8 回アジア・スマートシティ会議開催概要

日程	<p>令和元年 10 月 8 日(火)～11 日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 11 日（金）は ASCC と ASCN の共同運営にて視察ツアーを実施 ➢ ASCW として、ASCN 及び GSCA と連携開催
主催	横浜市
共同運営者	世界銀行東京開発ラーニングセンター（TDLC）、アジア開発銀行研究所（ADBI）
後援	内閣府 / 外務省 / 財務省 / 国土交通省 / 環境省 / 地球環境戦略研究機関（IGES） / 国際協力機構（JICA） / 横浜市立大学 / シティネット
会場	ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
テーマ	マーケットプレイスを通じた新たなビジネス機会の創出に向けて ～ビジネス・マッチングを促進するナレッジ・ハブの役割を考える～
参加国・都市数	20 か国 57 都市（ASCW 全体）
参加都市	<p><海外都市／アルファベット順></p> <p>バンドルスリブガワン市（ブルネイ）、バンドン市（インドネシア）、バンコク都（タイ）、バニュワング市（インドネシア）、パリサル市（バングラデシュ）、バルセロナ市（スペイン）、バタンバン市（カンボジア）、カガヤン・デ・オロ市（フィリピン）、セブ市（フィリピン）、チョンブリー県（タイ）、コロombo市（スリランカ）、ダナン市（ベトナム）、ダバオ市（フィリピン）、ジャカルタ首都特別州（インドネシア）、ジョホールバル市（マレーシア）、クアラルンプール市（マレーシア）、クチン市（マレーシア）、ラトリプル市（ネパール）、ルアンパバーン郡（ラオス）、マカッサル市（インドネシア）、マンダレー市（ミャンマー）、マンダウエ市（フィリピン）、ネピドー市（ミャンマー）、パーマストーンノース市（ニュージーランド）、プノンベン特別市（カンボジア）、プーケット県（タイ）、サンフェルナンド市（フィリピン）、サラワク州（マレーシア）、シェムリアップ市（カンボジア）、シドアルジョ県（インドネシア）、スバ市（フィジー）、トロント市（カナダ）、ウランバートル市（モンゴル）、ヴィエンチャン市（ラオス）、ヤンゴン市（ミャンマー）</p> <p><国内都市／五十音順></p> <p>会津若松市、宇都宮市、大阪市、大阪府、加古川市、柏市、鎌倉市、川崎市、北九州市、神戸市、さいたま市、札幌市、高松市、つくば市、東京都、豊田市、広島県、福岡市、藤枝市、舞鶴市、益田市、横浜市</p>
政府機関・国際機関・民間企業・学術機関等の参加機関（ASCC セッション参加者の所属のみ抜粋）	<p><海外機関></p> <p>フィジー国家災害管理室、ASEAN 事務局、世界銀行、アジア開発銀行、iTakuei Land Trust Board (TLTB)、タイ・デジタル経済振興庁 等</p> <p><国内機関></p> <p>内閣官房、国土交通省、世界銀行東京開発ラーニングセンター、アジア開発銀行研究所、イクレイ日本、慶應義塾大学、シティネット、スマートコミュニティ・アライアンス(JSCA)、スマートシティインスティテュート、世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター、世界自然保護基金ジャパン、地球環境戦略研究機関(IGES)、横浜市立大学 等</p> <p><民間企業></p> <p>アマタコーポレーション、イケア・ジャパン、NEC、OYO インターナショナル、JVC ケンウッド、JFE エンジニアリング、城南信用金庫、新明和工業、Slush Tokyo、竹中工務店、ディー・エヌ・エー、日建設計、日水コン、ファインテック、富士通、プランテック・コンサルティング、マクニカ、モバイルイノベーション 等</p>

アジア・スマートシティ・ウィーク（ASCW）全体スケジュール

	10月8日(火)	10月9日(水)	10月10日(木)	10月11日(金)
ASCW	- オープニング - レセプション		- レセプション	
ASCC	- ビジネス・マッチング・ステージ (セッションa~d、企業展示)	- ビジネス・マッチング・ステージ (セッションe~f、企業展示)	- オープニング - 分科会 (セッション1~6) - クロージング - ビジネス・マッチング・ステージ (企業展示のみ)	- 現地視察 (ASCC、ASCN 共催)
ASCN	- オープニング - 分科会 (6セッション)	- シンポジウム - ビジネス・マッチング - 企業展示 - クロージング		
GSCA		- 設立会合		

10月8日(火) :

9:30-10:15 アジア・スマートシティ・ウィーク オープニング

アジア・スマートシティ・ウィークの開会にあたり、関連会合の主催関係者が挨拶しました。

ASCN 主催者、日本政府代表者挨拶

内閣総理大臣補佐官 和泉 洋人氏

ASCC 主催者、開催都市代表者挨拶

横浜市長 林 文子

ASCN 主催者、ASEAN 代表者挨拶

ASEAN 事務次長 アラディン・リロ氏

ASCC 共同運営代表者挨拶

アジア開発銀行企業局長 ミッシェル・バロウ氏

ASCC 共同運営代表者挨拶

世界銀行駐日特別代表 宮崎 成人氏



10月8日（火）～10月10日（木） ASCC ビジネス・マッチング・ステージ

<時間> 8日：10:30-17:00、9日・10日：10:00-17:00

ASCC ビジネス・マッチング・ステージでは、企業や団体による展示、6つの都市課題分野（交通、防災・減災、水・排水処理、省エネルギー・再生エネルギー、廃棄物処理、スマートな都市開発）に関して、アジアの都市から現状と課題、企業などからソリューション技術やノウハウの共有が行われ、計31の発表が行われました。また、都市や企業関係者など参加者の交流や商談も行われました。今回のASCCではビジネスアプリ等を活用し、約60件のビジネス・マッチングが成立しました。

<ビジネス・マッチング・ステージ出展団体・企業>

新明和工業株式会社

株式会社 JVC ケンウッド

JFE エンジニアリング株式会社

株式会社ファインテック

株式会社竹中工務店

日本電気株式会社

株式会社マクニカ

Japan Smart Community Alliance (JSCA)

株式会社モバイルイノベーション

Japanese Public Organizations

OYO インターナショナル株式会社



【ビジネス・マッチング・ステージ セッション】

10月8日（火）

10:45-12:15 セッション a : 交通

カンボジア・プノンペン市 総務課長 セン・ヴァンナック氏

フィジー インフラ・交通・災害管理と気象サービス省 戦略企画ユニット プリンシパルエンジニア マリカ・ラトユキ氏

フィリピン・マンドゥエ市 都市計画・開発室 ヘッド マルロ・D.オクレアサ氏

マレーシア・サラワク州 インフラ・港湾開発省 事務次官 ダトゥ・ハジ・サフリ・ビン・ハジ・ザイヌディン氏

株式会社 JVC ケンウッド DX ビジネス事業部新事業開発部グローバルマーケティング G 課長主事 田中 秀樹氏

株式会社モバイルイノベーション第二法人営業部 グローバルビジネス推進 グローバル営業企画 課長 吉谷 博文氏



13:30-15:00 セッション b : 防災・減災

<スピーカー>

フィジー・スバ市議会議員・特別管理官 ケリー・ミーガン・マラ氏

フィリピン・セブ市 議会室 デービッド・F.トゥムラック氏

ネパール・ラリトプル市 市議会議員 プルシヨッタム・カッカー氏

フィリピン・サンフェルナンド市長 レルヤ・ラカンビニ・G.氏

株式会社 JVC ケンウッド DX ビジネス事業部 新事業開発部 グローバルマーケティング G チーフ 横山 卓頼氏

OYO インターナショナル株式会社 社長 宮崎 良氏



15:00-16:00 セッションc : 水・排水処理

<スピーカー>

マレーシア・イスカンダル地域開発庁(IRDA) 主席副長官 (技術・イノベーション) ノル・ファジラー・モハド・ラザリ氏

新明和工業株式会社 流体事業部営業本部グループ長 豊原 久司氏

株式会社日水コン 経営企画本部事業化推進室 戸部 達也氏

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 自然資源・生態系サービス領域

主任研究員 バオンゴック・ファム氏



16:00-17:00 セッションd : 省エネ・再エネ

<スピーカー>

ベトナム・ダナン産業貿易振興センター技術エネルギーコンサルテーション局 産業振興課長 チュオン・クワン・チュン氏

株式会社マクニカ スマートインフラ事業推進室室長 脇坂 正臣氏

[廃棄物処理に関するプレゼンテーション]

インドネシア・マカッサル市 経済協力局 ヘッド ナジラン・シャムスディン氏



10月9日（水）

11:30-12:30 セッション e : 廃棄物処理

<スピーカー>

バングラデシュ・バリサル市公社 健康担当官 ファイシャル・ハスブーン氏

インドネシア・バンドン市公的政策 ユギ・スクリアナ氏

フィリピン・マンドラウエ市 担当官 アラセリ・G.パーラム氏

インドネシア・シドアルジョ県 協力室長・投資・ワンストップ統合ライセンスサービス アリ・スルヨノ氏

スリランカ・コロombo市議会主任獣医 イランガンハ・ダルマワルダナ氏

JFE エンジニアリング株式会社 海外管理部部長 高橋 元氏

株式会社ファインテック 代表取締役社長 岡田 泰行氏



16:00-17:00 セッション f : スマートな都市開発

<スピーカー>

インドネシア・マカッサル市 経済協力局 ヘッド ナジラン・シャムステイン氏

モンゴル・ウランバートル・健康都市ネットワーク局長 ツェレンデュラム・シャグダルスレン氏

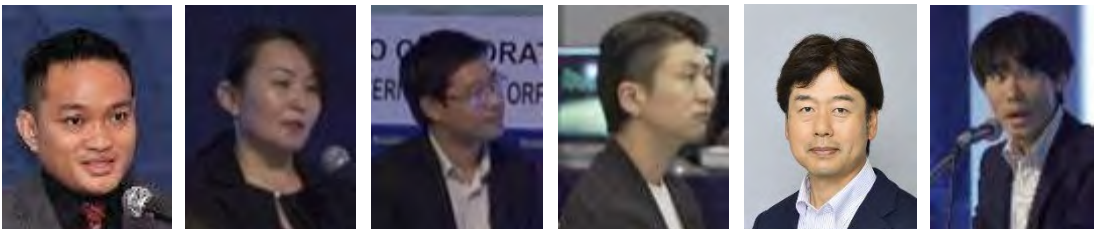
ベトナム・ダナン市情報・コミュニケーション局 副局長 ル・ソン・フォン氏

株式会社日建設計 チーフコンサルタント、ソリューショングループ IoT 推進室 中村 公洋氏

富士通株式会社 ビジネスクリエーション統括部/JSCA インフラ評価研究会リーダー ISO/TC 268/SC 1/WG 1

国内幹事 藤本 太郎氏

株式会社ディー・エヌ・エー エネルギー事業推進室シニアマネージャー 永田 健太郎氏



10月10日（木）

9:30-9:45 イントロダクション

イントロダクションでは、横浜市国際局国際協力部長の橋本徹から、今回のASCCの目的や期待されるインパクトについて説明しました。



- 1) 海外の都市開発に関する情報・人が集まるマーケットプレイス。都市課題や成長へのビジョン、企業や学術機関による革新的ソリューションの提案、公民連携を資金面で支援する国際機関の施策や世界の様々なベストプラクティスの共有
- 2) 都市課題解決に向けた「ナレッジハブ」の役割強化
- 3) 新たなビジネスやソリューションの創出

10:00-12:00 セッション1：都市課題解決にむけた交流

6つの都市課題分野：1) 廃棄物処理、2) 水・排水処理、3) 省エネルギー・再生エネルギー、4) 交通、5) スマートな都市開発、6) 防災・減災のテーマについて、アジアの都市課題やスマートシティ開発に関わる専門家をファシリテーターに迎え、ワールドカフェ形式によるインタラクティブなグループディスカッションを行いました。またセッションの最後には、ファシリテーターから各グループディスカッションの結果が共有されました。

＜グループディスカッション・ファシリテーター＞

- | | |
|-----------------|---|
| 廃棄物処理： | Y-PORT センター・アドバイザー メリー・ジェーン・オルテガ氏 |
| 水・排水処理： | アジア開発銀行 プリンシパル・アーバンデベロップメント・スペシャリスト
サンジャイ・ジョシ氏 |
| 省エネルギー・再生エネルギー： | 一般社団法人イクレイ日本 事務局長 内田 東吾氏 |
| 交通： | 鎌倉市 参与/プランテック・コンサルティング 顧問 加治 慶光氏 |
| スマートな都市開発： | Y-PORT センター・アドバイザー アルフォンゾ・ベガラ氏 |
| 防災・減災： | シティネット横浜プロジェクトオフィス 事業課長 平田 ケンドラ氏 |



10:00-12:00 セッション 2 : 破壊的技術と都市開発

主催：世界銀行東京開発ラーニングセンター

このセッションでは、既存及び新規の都市課題解決に向けて人工知能などのいわゆる破壊的技術を用いる都市が増えていることを踏まえ、まちづくりにおける破壊的技術の可能性と課題について、官民連携にも触れながら議論を行いました。

<モデレーター>

世界銀行 東京開発ラーニングセンター シニアプログラムオフィサー ヴィクター・ムラス氏

<スピーカー>

福岡市 総務企画局企画調整部企画課 課長 藤本 和史氏

神戸市 企画調整局 医療・新産業本部新産業部新産業課 課長 多名部 重則氏

北九州市 環境局アジア低炭素化センター事業化支援担当課長 村上 恵美子氏

横浜市 政策局政策部政策課長 安達 恒介

横浜市 資源循環局政策調整部 3R 推進課長 江口 洋人



10:00-12:00 セッション3 : SDGs ビジネスセミナー ～SDGs・環境経営の視点を企業活動の本流に取り込む～

SDGs や環境経営における先進的な取組を行っている企業・団体の事例を紹介するとともに、こうした視点を企業経営の本流に取り込んでいくことの重要性について参加者と共有しました。

<スピーカー>

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWF ジャパン） 自然保護室気候変動・エネルギーグループ

プロジェクトリーダー 池原 庸介氏

イケア・ジャパン株式会社 IKEA 港北ストアマネジャー 野山 和美氏

城南信用金庫 常務理事 上原 秀生氏

横浜市 温暖化対策統括本部 副本部長 奥野 修平



13:15-15:15 セッション4：都市課題解決のためのナレッジ・ハブの役割

パリ協定やSDGsを契機に、地球の限界（プラネタリーバウンダリー）が都市レベルでも幅広く共有されるなか、具体的なソリューションを創造するスペースとしてのスマートシティへの期待が高まっています。一方で、スマートシティが目指すべき姿・果たすべき役割について改めて問い直すタイミングにあります。このセッションでは、アジア都市におけるスマートシティ推進事例等を共有しながら、都市ソリューションによる課題解決を進めていく上でのナレッジ・ハブの在り方についてパネル形式で議論しました。

<モデレーター>

Y-PORT センター・アドバイザー アルフォンゾ・ベガラ氏

<スピーカー>

アマタコーポレーション PCL. チーフ投資オフィサー レナ・ング氏

世界銀行 東京開発ラーニングセンター シニアプログラムオフィサー ヴィクター・ムラス氏

一般社団法人世界経済フォーラム 第四次産業革命日本センター

プロジェクト・スペシャリスト, IoT, ロボティクス・アンド・スマートシティ 平山 雄太氏

タイ・デジタル経済振興庁 南部地域担当副局長 プラチャ・アサワテラ氏

アジア開発銀行 アーバン・デベロップメント・スペシャリスト ダニエラ・シュミット氏

横浜市 国際局 国際協力部長 橋本 徹



13:15-15:15 セッション5：効率的で効果的なインフラ計画とサービス提供のためのスマート・テクノロジー

主催：アジア開発銀行（ADB）

都市化が都市の成長とイノベーションの機会をもたらしてきた一方で、多くの都市が、サービスの提供が困難となるような課題や、持続可能で住みやすい未来の実現を妨げるような課題に直面していることを踏まえ、効率的かつ効果的なインフラ計画とサービスの提供を促進し、住民の生活の質と住みやすさを向上させるために、都市に関連する実用的で革新的な技術ソリューションについて議論しました。

<モデレーター>

アジア開発銀行 アーバン・デベロップメント・スペシャリスト ジェ・バイ氏

<スピーカー>

フィジー iTakuei Land Trust Board (TLTB)

チェンジ・マネージメント・アンド・スペシャルプロジェクト戦略企画マネージャー レイジェリ・テイラー氏

慶応義塾大学 環境情報学部 教授 ワングリン・ヤン氏

アジア開発銀行 プリンシパル・アーバン・デベロップメント・スペシャリスト サンジャイ・ジョシ氏

国土交通省 都市局 都市計画課 都市計画調査室長 筒井 祐治氏

鎌倉市 参与/プランテック・コンサルティング 顧問 加治 慶光氏



13:15-15:15 セッション6：横浜ユースイベント 2019 ～スタートアップ・エコシステムの役割と可能性

～

主催：横浜市立大学

次世代育成を目的として、「新興国におけるスタートアップ・エコシステムの可能性」をテーマに、横浜市立大学学生による発表、ディスカッションの他、ゲストによる基調講演を行いました。

<モデレーター>

シティネット横浜プロジェクトオフィス 事業課長 平田 ケンドラ氏

<基調講演>

アジア開発銀行研究所 能力開発・トレーニング・エコノミスト ピチャ・シリワナーヌー氏

<コメンテーター>

アジア開発銀行研究所 研究員 シュリヤス P. バール氏

アジア開発銀行研究所 能力開発・トレーニング・エコノミスト ピチャ・シリワナーヌー氏

Slush Tokyo 最高経営責任者 古川 遥夏氏

横浜市 経済局 課長補佐（成長戦略推進部新産業創造課担当係長） 斎藤 信明



15:30-17:00 クロージング・パネル

ASCC、そして ASCW 全体の議論を通じて、グローバルな課題に立ち向かうスマートシティの役割と今後の展開の可能性について、持続可能な都市開発、スマートシティ開発などの分野で活躍する専門家の見解を参加者と共有し、「マーケットプレイス」の展開、スマートシティ開発に向けた取組や今後の ASCC の方向性への示唆等について議論を行いました。また、ユースイベントの成果発表の後、最後に、ASCC の議論をまとめた横浜宣言を発表しました。

●クロージング・パネル（パート1）：セッション 1～5 の結果共有が行われました。

<モデレーター>

Y-PORT センター・アドバイザー ビンドゥ・ロハニ氏

<スピーカー>

セッション 1：Y-PORT センター・アドバイザー メリー・ジェーン・オルテガ氏

セッション 2：世界銀行 東京開発ラーニングセンター シニアプログラムオフィサー ヴィクター・ムラス氏

セッション 3：横浜市 温暖化対策統括本部 副本部長 奥野 修平

セッション 4：Y-PORT センター・アドバイザー アルフォンゾ・ベガラ氏

セッション 5：アジア開発銀行 アーバン・デベロップメント・スペシャリスト ジェ・バイ氏



●クロージング・パネル（パート2）：ASCW 全体の成果について議論しました。

<モデレーター>

Y-PORT センター・アドバイザー ビンドゥ・ロハニ氏

<スピーカー>

内閣官房 イノベーション総括官 赤石 浩一氏

Y-PORT センター・アドバイザー メリー・ジェーン・オルテガ氏

Y-PORT センター・アドバイザー アルフォンゾ・ベガラ氏

一般社団法人スマートシティインスティテュート エグゼクティブアドバイザー 信時 正人氏

タイ・デジタル経済振興庁 南部地域担当 副局長 プラチャ・アサワテラ氏

世界銀行 東京開発ラーニングセンター シニアプログラムオフィサー ヴィクター・ムラス氏

アジア開発銀行研究所 副所長 キム・チュルジ氏



<都市代表コメント>

マンダウエ市長 ジョナス・C. コルテス氏

バンコク都知事アドバイザー長 バロップ・スワンディー氏



●ユースセッション（セッション6）からの報告



●横浜宣言の発表

横浜市国際局長の赤岡謙から横浜宣言を発表しました。（P.17）



交流の場の提供



10月11日（金） 視察

ASCC・ASCN 共催で、海外からの参加者向けの視察を実施しました。

コース A : 食品リサイクル・バイオガス発電工場(横浜市内:J バイオフードリサイクル横浜工場)



コース B : 快適で暮らしやすいまちづくり(横浜市内:港北ニュータウン)



コース C : イノベーション研究エリア(川崎市内:殿町キングスカイフロント)



第8回アジア・スマートシティ会議「横浜宣言」

私たちは、アジアにおけるスマートで持続可能な都市の成長を実現するため、都市間協力や、都市と国際機関との連携を強化することを目的として、8年間にわたって「アジア・スマートシティ会議（ASCC）」を開催してきました。

本年度のASCCは、アジア・スマートシティ・ウィーク（ASCW）の一環として開催し、スマートシティに関心を持つ幅広い参加者が集いました。ASCWの開催期間中には、ASCCと連携し、国土交通省が主催する「日ASEAN スマートシティ・ネットワーク ハイレベル会合」、内閣府と世界経済フォーラム第4次産業革命日本センターが主催する「グローバル・スマートシティ・アライアンス設立会合」が開催されました。

今回の会議では、「マーケットプレイスを通じた新たなビジネス機会の創出に向けて～ビジネス・マッチングを促進するナレッジ・ハブの役割を考える～」をテーマとして、新たな飛躍的な技術が都市に及ぼす影響と、あらゆる立場の人々に関わる水・排水処理、廃棄物処理、交通、省エネルギー・再生エネルギー、防災・減災、スマートな都市開発といった都市課題について議論されました。

アジア開発銀行（ADB）、アジア開発銀行研究所（ADB I）、世界銀行東京開発ラーニングセンター（TDLC）、横浜市が主催する分野・企画別セッションでは、総合的な都市開発をテーマに、革新的技術に関する知識が共有され、今後の方向性について意見が交わされました。このような議論を通じて、参加者の間では、国境を越え、前向きに学び合うことの重要性に対する認識が高まり、会議全体としては、次のような見解に至りました。

1. 参加者は、持続可能な開発目標（SDGs）、第三回国連人間居住会議（ハビタット3）で採択されたニュー・アーバン・アジェンダ、仙台防災枠組、国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で採択されたパリ協定などの国際目標へのコミットメントを再確認しました。国際社会が持続可能な成長の実現を加速させる中、カーボン・ニュートラルという野心的目標の達成に向けて、各都市は連携を進めています。世界各国の都市で人口が著しく増加するにつれて、市民生活を直接支える都市の役割は、ますますその重要性を増しつつあります。都市は、市民参加型プラットフォームや革新的なソリューションを目指す公民連携により、積極的に市民との協働を行っていくべきです。これにより、包括性と生活の質を高めることで、「住みやすい都市」を実現することができます。また、都市を1つの研究所、つまり「アーバンラボ」とみなし、都市のダイナミクスの変化と市民のニーズを特定する必要があります。

2. アジアのスマートシティ、特に新興国のスマートシティは、清潔な水を提供し、排水や廃棄物を処理し、安定したエネルギーを供給し、効率的な交通システムを開発していく上で、未だ基礎的な都市課題に直面しています。こうした課題に対処するには、質の高いインフラが重要であることへの認識を高める必要があります。更に、人工知能（AI）、第4次産業革命と第5次産業革命、モノのインターネット（IoT）、ロボット工学、ブロックチェーンなどの技術がバランスや技術革新といった分野横断的な課題はもとより、効果的かつ革新的な都市課題解決策の共創について議論し、これらの都市開発への影響・効果を特定することが求められます。
3. 都市ごとに地政学的条件が異なるため、都市管理のノウハウは暗黙知として扱われてきました。会議では、ICT技術の普及により、都市及び民間部門が「オープンデータ」及び「ビッグデータ」を利用できる機会が増加するとともに、今後、ICT開発により都市の管理が更に複雑となり、新たなスマート技術がサービス業として台頭してくる可能性があることが強調されました。こうした傾向から、サービスとしての都市経営（CMaaS）といったビジネス・スタイルが確立する機会が生じ、このようなアプローチの登場により、都市経営のノウハウは移転可能なものとなります。
4. 持続可能な都市と循環経済の共創という開発目標を達成する上での、民間部門のパワーと潜在的可能性が認識されました。新興国では、地域全体の都市開発と革新的なスマート・アーバン・ソリューションの導入において、民間部門が主導的な役割を果たしつつあります。こうした新たな動きの中で、各都市のリーダーや関連国際機関には、参加型プラットフォームを通じて、市民の参画を促すことが求められます。
5. Y-PORT センターなどのナレッジ・ハブや学び合う場の重要性についても意見が交わされました。今後も引き続き、アジア・スマートシティ・アライアンス（ASCA）などのデジタルプラットフォームを通じて、ピア・ツー・ピア（複数の対等な主体同士のつながり）の強化を図り、開発パートナー間の都市連携の推進を進めるとともに、これらの機会をアイデアや経験、イノベーション事例について交換し、関係者で共有できる理想的な場として活用していきます。

この横浜宣言について、本年10月にマレーシアのパナンで開催される第7回アジア太平洋都市フォーラム（APUF7）をはじめ、関連する国際会議において報告します。